検査に影響のある薬剤について

検査を受ける際の注意点

•服用中の薬がある場合は、自己判断で中止せずに、担当医にご相談ください。
•薬剤の影響を受けて検査結果が変動している可能性がありますので、薬を服用中の方は参考値としてみてください。

項目名	薬剤名	要因
AMH	経口避妊薬（ピル）	•ピルを服用している間は卵巣が休眠状態に近くなるため、AMH値が低く出ることがあります。この現象は一時的なもので、ピルによって実際の卵巣機能が悪くなるわけではありません。 •正確なAMH値を測定するためには、ピルの服用を中止してから3か月程度期間を空けることが推奨されます。
	メトホルミン（MET）	•多嚢胞性卵巣症候群（PCOS）の患者がメトホルミンを服用すると、AMH値が低下することが示されています。
	クエン酸クロミフェン（CC）	•排卵誘発剤として使用されるクエン酸クロミフェンも、PCOSの患者のAMH値を低下させることが報告されています。
	GnRHアゴニスト（GnRH-a）	•GnRHアゴニストは、子宮内膜症の治療などに用いられ、AMH値に動的な変動をもたらすことがあります。
	DHEAサプリメント	•卵巣予備能が低下している一部の患者において、DHEAの補充がAMH値を増加させる可能性が示唆されています。ただし、この分野はさらなる研究が必要です。
	ビタミンD	•ビタミンDの補充もAMH値の上昇と関連しているという研究報告があります。
エストラジオール	卵胞ホルモン剤（エストラジオール製剤）の服用は、体内のエストラジオール値を上昇させ、検査結果に影響を及ぼす可能性があります。	•更年期障害の治療薬など、エストラジオールを配合したホルモン補充療法薬。 •経口避妊薬（ピル）など、体内のホルモンバランスに影響を与える薬。
FSH	FSH製剤（例：フォリスチム）	•不妊治療などに使用され、体内のFSHを直接増加させるため、検査結果に影響が出る場合があります。
	ホルモン剤（ピルなど）	•経口避妊薬（ピル）などのホルモン剤は、FSHの分泌を抑制する可能性があります。
TSH	甲状腺ホルモン薬（チラーヂンなど）	甲状腺ホルモンが不足している甲状腺機能低下症の治療に用いられます。 薬の服用により体内の甲状腺ホルモンが正常値に近づくため、検査値も安定します。ただし、服用直前に採血すると、検査結果が高めに出ることがあります。
	抗甲状腺薬（メルカゾール、チウラジールなど）	甲状腺ホルモンが過剰になるバセドウ病などの治療に用いられます。 薬によって甲状腺ホルモンを抑えるため、TSH値が変動する場合があります。
	ヨウ素（ヨード）	食べ物や薬、うがい薬などから摂取するヨウ素は、甲状腺ホルモンの原料となります。そのため、ヨウ素の過剰摂取は、甲状腺機能に影響を与え、TSH値が変動する場合があります。
FT4	甲状腺ホルモン薬（チラーヂンSなど）	甲状腺機能低下症の治療に用いられ、FT4値を上昇させます。
	抗甲状腺薬（メルカゾールなど）	バセドウ病などの甲状腺機能亢進症の治療に用いられ、FT4値を低下させます。
	アミオダロン	抗不整脈薬の一種で、甲状腺ホルモンの代謝に影響を与え、FT4値を変化させることがあります。
	リチウム	気分安定薬として使用され、甲状腺ホルモンの産生を抑制し、FT4値を低下させる可能性があります。
	エストロゲン製剤（経口避妊薬など）	甲状腺ホルモンと結合するタンパク質（TBG）を増加させるため、総サイロキシン（T4）の値は上昇しますが、FT4値への影響は少ないとされています。
	グルココルチコイド	FT4値を一時的に低下させることがあります。